理事長就任のご挨拶

新理事長（2020年4月より）

里村 淳

理事長就任のご挨拶

日本外来臨床精神医学会　理事長　里村 淳

この度、日本外来臨床精神医学会の理事長を拝命した里村です。就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当学会は、通常の学会と異なり、臨床での新知見、いわゆる「Neues」を求める学会ではなく、精神科医の日常臨床のスキルアップを目的とした学会です。したがって、学会というより研修会といった性格の強いものです。そのため、症例検討を重視し、実例をとおしてお互い学び合うという姿勢を保ってきました。

臨床は経験と言われますが、経験から何かを学び取っていくことが大切で、同じことの繰り返しでは進歩がありません。つねに自己の臨床を検証してみる姿勢が大切です。とはいえ、忙しい毎日の診療でそのようなことを実践することはやさしいことではありません。そこで、ときには症例検討をとおしてほかの人の意見を聞き、批判を受けることが臨床家としての成長に必要ではないでしょうか。教育的な講演を聴いて知識を増やすことを自己の研鑽の機会とするという意味では、こんにちでは選ぶのに困るほどの講演会があります。しかし、症例検討を軸にしたものは数少ないのです。そのような意味で、当学会の存在の意味があるのです。

元号が令和に変わって二年目、いよいよオリンピックという、希望がもてる年になったとおもいきや、世界は新型コロナウィルスの脅威にさらされるようになりました。医療はその渦の中にまきこまれ、多くの学会、研究会、会議など人が集まるイベントは軒並み中止となり、当学会も例外ではありません。「自粛」という名のもとに産業、経済はもとより、多くの分野に深刻な影を落としています。こころの健康という面では、コロナDV、コロナ離婚、コロナ不安、コロナうつ、そしてコロナ自殺など、コロナと名の付く弊害が続々と叫ばれるようになってきました。かつての「自殺者3万人」の再来という嫌な予感がよぎります。われわれ精神科医療にはまだ大きな波は押し寄せていませんが、時間の問題ではないでしょうか。

それだけでなく、新型コロナウィルスによる壊滅的な被害を契機に、世の中の在り方が変わって来るような気配もします。はやくも「ポスト・コロナ」という言葉も出ています。その中にあって、精神科医療、とりわけクリニックを中心とした外来精神科医療にはどのような影響があるのでしょうか。このようなことも視野に入れてこれからのわれわれの活動を進めていきたいと思います。

2020年6月